



{ 点が無限に集まると・・・線になるとかならんとか・・・ }

---

さて、ここで、「線」をイメージしてみてください。

曲がった線でもいいですが、まっすぐな線、『直線(ちよくせん)』にしましょう。

両端のある直線にしましょう。現代では『線分(せんぶん)』といいます。

ここでは、それを単に『線』ということにしますね。

---

線には、長さがあります。15センチとか。単に15といってもいいでしょう。

また、線は、点が並んでできています。(信じますか?)



15センチの線には、点が何個あるの?      それはやっぱり無限個でしょう。

10センチの線には、点が何個あるの?      それもやっぱり無限個でしょう。

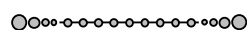
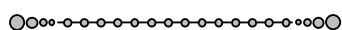
じゃあ、どっちの点が多いの?      それはやっぱり15センチの線でしょう。

無限と無限をくらべていいの?      もちろんいいでしょう。

というのが、ピタゴラスの考え方でした。

何いってるの? と、思うかもしれませんが、ピタゴラスはこう考えました。

15センチの線にある点の個数と、10センチの線にある点の個数をくらべたいなら



(15センチの線にある点の個数) : (10センチの線にある点の個数)

という数関係、つまり「比(ひ)」を考えればよいのではないか?

この、(無限コ) : (無限コ) は、何なのだろう?

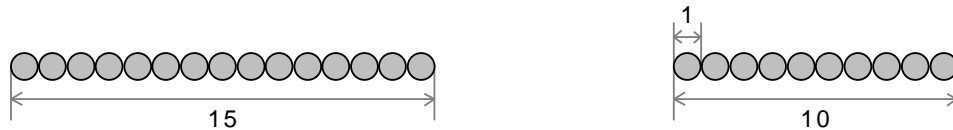
おそらく、ふたつの長さの比、(15センチ) : (10センチ) の、15 : 10 だろう。

(もちろん、3 : 2 と同じだよ)

ちなみに，

「くらべる」を，漢字では「比べる」，「較べる」，「競べる」と書いたりします。

15 : 10 などの「比(ひ)」という概念は，「くらべる」という意味 そのまんまです。



直径が 1 センチの玉を，15 コ並べたものと，10 コ並べたものを比べてみれば，

長さの比の 15 : 10 も，玉のコ数の比の 15 : 10 も，まったく同じ比ですね。

ピタゴラスは，「点」が無限に並んでいても，同じことだろう，

というか，同じことになってほしい，

いや，同じことになるはずだ，

などと，思いめぐらして，結局，

「点」が無限に並んでいても，同じことなのだ。

と，言い切ってしまったのでした。

そんな気がする？ しない気もする？

でもピタゴラスは「教祖(きょうそ)さま」です。彼が「だよね？」と言えば，

仲間たちも「だ～よね～」と言うしかなかったのです・・・(かもしれない)。

『あの人が言うのだから』という理由だけで，

なんでもかんでも言いなりになってしまう愚(ぐ)は，

得てして「とんでもない事態」を，引き起こしてしまうものです。

この時，ピタゴラスと仲間たちは，まだ気付いていなかったのです。

自分達が，シャレにならない大失敗をしていたことに。